

「2017年3月11日 東日本大震災から6年を数えての祈り」の送付について

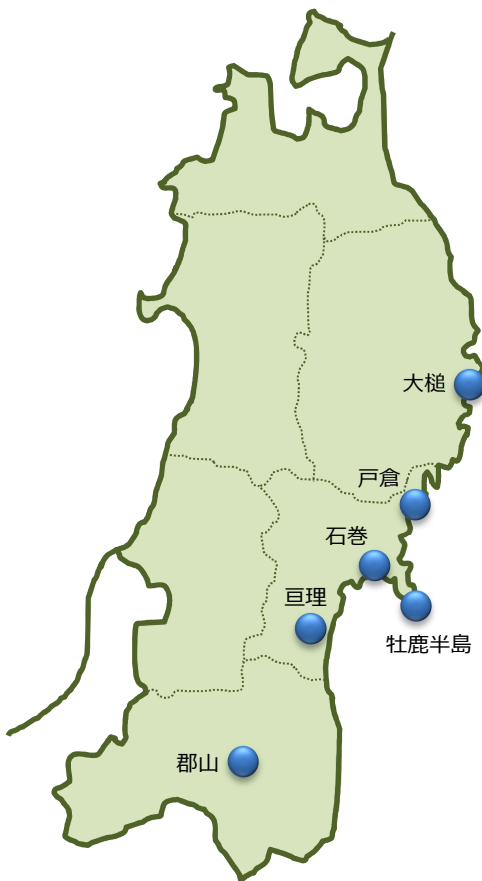
主の御名を讃美いたします。

これまで、東日本大震災現地支援委員会の働きを覚え、祈り、支えてくださり、心から感謝いたします。

震災から6年が経とうとしています。東日本大震災の風化が叫ばれている中、現地支援委員会では、ぜひ全国の皆様に現地の状況と、現地の思い、そして現地の祈りを共有していただきたいとの願いから、「2017年3月11日 東日本大震災から6年を数えての祈り」を作成しました。どうか全国の皆様にもこの現地の祈りに心を合わせていただきたいと願っています。

貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。皆様のご支援に心から感謝して。 在 主

【現在継続中の支援地域】



◇岩手県大槌町安渡・小槌支援（仮設住宅支援）

（盛岡バプテスト教会、郡山コスモス通りキリスト教会、山形キリスト教会、南光台キリスト教会他）

◇宮城県南三陸町戸倉支援（学習支援）

（日本バプテスト仙台基督教会他）

◇宮城県石巻市元浦屋敷支援（仮設住宅支援）

（大富キリスト教会他）

◇宮城県石巻市牡鹿半島（荻浜・牧浜・鮎川・月浦）支援（仮設住宅、在宅支援）

（日本バプテスト仙台基督教会、大富キリスト教会、南光台キリスト教会、仙台長命ヶ丘キリスト教会他）

◇宮城県巨理町支援（在宅、地域支援）

（仙台長命ヶ丘キリスト教会他）

◇福島県郡山市緑ヶ丘仮設住宅支援（仮設住宅支援）

（郡山コスモス通りキリスト教会他）

※岩手県野田村支援、宮城県石巻市牡鹿半島給分浜支援は終了しました。これまでの皆様のご支援とお祈りに心から感謝いたします。

2017年3月11日 東日本大震災から6年を数えての祈り

東日本大震災現地支援委員会

主なる神様

2011年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から6年が経ちます。2017年1月現在で15,893人が亡くなられ、震災後の避難生活などで3,523人が亡くなりました※1。また、2,556人の方はいまだに行方が分からないままです※2。主よ、あなたの平安がご遺族と行方不明者のご家族の上に豊かにありますようお祈りします。

あの3月11日に未曾有の大地震を体験し、立ちすくむしかなかった現実のただ中で、「その日の苦勞」（マタイ6:34）を負う日々を重ねながら歩む人たちを、主は今も「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい」（マタイ11:28）と招いてくださっています。その伴いに励まされ、前を向いて歩み続ける被災地の方々と共に、あなたの恵みを分かち合うことがゆるされていることを心から感謝します。被災した地域では、造成された土地に住まいが建ち、震災後の新しい生活が始まり、地域の復興事業も進み、生活の再生を喜ぶ人たちがいます。主よ、その喜びを分かち合い、これからも共に歩み続けさせてください。

それでもなお仮設住宅に住み続けなければならない人たちが130,740人もおられ※3、生活再建、地域の復興のためにまだ時間を必要としている人たちがいます。特に、福島第一原発事故で避難を余儀なくされている人たちは、生まれ育った地へ帰る目途も立たず、生活再建の見通しさえ無い現実を引き受け続けなければなりません。また、避難生活の現実が理解されない苦悩も負わされています。さらに事故を起こした福島第一原発による放射能汚染は今も続いており、健康被害、生活破壊の脅威に怯えている子どもたち、大人たちがいます。このような原発事故の現実直面して改めて示されたのは、「全ての造られたものを良しとされ、わたしたち人間に『共に生きよ』と言ってくださった」※4 主の恵みを破壊する私たちの過ちでした。しかも私たちは、そのような原発の再稼働を許してしまいました。主よ、私たちを憐れんでください。そして私たちが、今もなお放射能汚染の現実を理解されず、不安に怯（おび）え、苦悩しながら生きている人たちを忘れることなく、主の守りを祈り、共に歩み続けさせてください。

主よ、被災地に住む私たちはこの6年間、あなたからの慰めと恵みをいただいたこと、また多くのバプテストの人たちの祈りと支援の繋がりを持たせていただいたことを心から感謝します。それゆえに、私たちが新たな災害によって苦しみを受けている人たちを心に留め、あなたの守りを祈る者とさせていただきます。

2016年、私たちは多くの災害に直面し、またその報道に接してきました。4月の熊本・大分地震、6月の特に南阿蘇地方を襲った記録的大雨、8月以降の北海道・九州・東北を襲った台風、10月には阿蘇中岳の爆発的噴火、鳥取県中部地震が起きました。11月には東日本大震災の余震とされた福島県沖地震は、津波被害だけでなく原発事故の危険に再び曝（さら）されることになりました。12月には、新潟県糸魚川市で強風に煽（あお）られた大火事が起き、避難場所で越年した方が多くおられました。災害は日本だけではなく、10月にはイタリア中部での地震、11月のニュージーランド南島の地震など地球規模で起きました。災害は私たちの身近で起こる現実ですが、そこで苦悩する人たちに連帯する人たちがおり、支援の働きがなされています。主よ、私たちも苦悩する人たちの守りをなお祈り続け、共に歩む者とさせていただきます。

主よ、どうぞこれからの私たちの歩む道を照らし、十字架と復活の主イエス・キリストの恵みの御業が起こるようになお祈る者とさせていただきます。主の恵みと慈しみが、命ある一人ひとりに、そしてあなたが創造されたこの世界に豊かにあふれますよう心からお願いします。

イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。

- ※1 「河北新報」(2017年2月12日朝刊)
- ※2 復興庁 HP <http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-6/20140526131634.html>
「東日本大震災における震災関連死の死者数」(2016年9月30日、2017年1月16日発表)
- ※3 復興庁 HP <http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/hinanshasuu.html>
「全国の避難者等の数(所在都道府県別・所在施設別の数)」2016年12月27日
- ※4 「我が国の原子力行政を憂慮し『無核・無兵』社会を目指すことを求める声明」(2008年日本バプテスト連盟第54回定期総会採択)、連盟公害問題特別委員会編「原発 Q&A 声明文解説集」(2015年)参照